

令和6年度

岩泉町立岩泉小学校報



しずがわ

令和6年度 第12号

令和6年10月11日

文責 校長 吉田 浩規

遠足・社会科見学に行ってきました

9月27日（金）1・2年生は“グリーンピア三陸みやこ”に行きました。6つの班に分かれての縦割り活動では、2年生が企画した遊びをグループごとに行いました。その後は、グループごとに楽しく会話しながらのお弁当タイム。楽しい会食時間を過ごしたようです。午後からは、屋外でウォーク・ラリー。2年生がリーダーシップを発揮し、1年生と協力してチェックポイントを回りました。

子どもたちにとって、大満足の遠足になりました。



たてわり活動



ウォーク・ラリー

9月26日（木）、3年生が町内をめぐる社会科見学に出かけました。（株）岩泉ホールディングスでは、牛乳やヨーグルトができるまでの工程を学び、龍泉洞では、洞内を見学し神秘の世界を身近に体験しました。その後、歴史民俗資料館へ移動してお弁当を食べ、遊具で楽しく遊びました。午後には、歴史民俗資料館内の見学。昔の道具や人々の暮らしについて詳しく学ぶことができました。岩泉の魅力を再発見したようです。



龍泉洞の見学



お弁当タイム

PEP TALK! で、自己肯定感を高めよう ～やる気引き出す4つのステップ～

本校では、昨年度から、子どもたちの自己肯定感を高めるために、前向きな言葉によるコミュニケーションのスキルとして、ペップトークを学校のスローガンに掲げています。

ペップトークとは、もともとは、アメリカでスポーツの試合前に監督やコーチが選手を励ますために行なう激励のスピーチのこと。相手にポジティブなメッセージを伝えることによって、不安や恐怖といったネガティブな気持ちを取り除き、やる気や自信を生み出す効果が期待できます。

日本ペップトーク普及協会によると、ペップトークは日常のどんな場面でも取り入れることができ、活用していくうちに、相手（子ども）はもちろん、ポジティブな言葉がけをしている自分（親）の思考や行動も前向きになっていくという特徴があるそうです。

また、次の4つのステップを意識して話すことにより PEPTALK の効果も高まります。

①受容(事実の受け入れ)

まずは相手の状況を把握し、相手の気持ちを受け入れていることを伝えます。

例：「緊張するよね」「したくないときもあるよね」「誰でも不安になるよ」

②承認(捉え方の変換)

①で受け入れたネガティブな気持ちをポジティブに捉えていきます。

例：「たくさん練習していたよね」「ここまでできているなんてすごいね」

③行動(してほしいことの変換)

ネガティブな表現を使わずに、相手にしてほしい行動を具体的に伝えます。

例：「まずは1ページだけ終わらせてみよう」「リラックスした状態でテストを受けよう」

④激励(背中の一押し)

安心感を与える声かけや、背中を一押しする声かけをします。

例：「何かあったら助けるからね」「君ならできるよ！」

さらに、ペップトークには「ポジティブな言葉を使う」「短い言葉を使う」「わかりやすい言葉を使う」「相手が言ってほしい言葉を使う」「相手の心に火をつける本気の関わりをする」という5つのルールもあります。4つのステップと5つのルールを組み合わせるとこんな感じになります。

子どもが家庭学習をするのを嫌がっているとき

「今勉強したくない気分なんだね。誰でも、やる気が出ないときがあるよね。」

「でも、この前はしっかり課題を終わらせていたじゃない。ちゃんとできるときもあるんだよね。」

「とりあえず〇時までやってみたらいいんじゃないかな。」

「わからないところがあったら聞いてね。」

子どもが友だちとケンカしてしまったとき

「〇〇くんとケンカしちゃったんだね。悲しいし、くやしくなるよね。」

「きっと仲直りしたい気持ちがあるから、モヤモヤするんだよね。」

「〇〇くんに怒ってしまった理由を説明してきちんと謝ってみたら、仲直りできるんじゃないかな。」

「あなたの気持ちは〇〇くんにも伝わるよ。」

子どもの自己肯定感を高め、大人もポジティブになれるペップトーク。ぜひ日常生活に取り入れてみませんか。

11月には、PEPTALKを学ぶ家庭教育学級（PTA文化部主催）が予定されています。